

今年度も、たくさんの部活動が全国大会出場を果たしました。このあと表彰式の後に、全国大会出場を果たした、陸上競技部、ビジネスライセンス部、放送部、天文部、美術部、文芸部、書道部の7つの部活動の壮行会をします。全国大会出場まではいかなくとも、3年間部活動を頑張った3年生にエールを送りたいと思います。

昨日に特別に延期された球技大会でも、多くの人のおかげで実施することができました。最後まで自分のクラスでなくても応援しているみなさんの姿に団結を感じました。

さて、7月26日から8月11日まで、パリオリンピックが行われます。

3年前に無観客で東京オリンピックが行われましたが、今から60年前の1964年にも、東京オリンピックが行われました。この時、マラソンで銅メダルを取った円谷 幸吉（つぶらや こうきち）の話をしてします。

円谷選手は、当時では、日本人初のマラソンでメダルを取った快挙で、その時唯一の陸上でのメダリストです。マラソンを始めたのは、わずか7ヶ月前で、オリンピックが4度目のレースでした。まったくの無名な新人が、メダルを取るとは誰も予測していませんでした。

円谷選手は、このように言っています。

「マラソンは、ごまかしのきかない真面目なスポーツである
自己を裏切れば、その結果が成績として現われる。

正しい生活、正しい精神、正しいトレーニングにより、実力が発揮される。
マラソンは即人間教育であり、社会教育と考える。」 と。

マラソンは42.195kmを走り抜く2時間余りだけが戦いではない。当日までの、取り組みの姿勢のすべてが、正直に現われると言われます。

走る技術やトレーニング方法ばかりに目がいきがちですが、円谷選手は、それらを支える精神、生活態度をととても重視したのです。

円谷選手は、先輩から、

「円谷君、日本一の選手になるためには、毎日欠かせない練習と、真面目な生活態度が肝要だ。これは自身の問題で、外部の人がとやかく言うてできるものではない。」と激励され、この言葉を深く受け止めて、寝る前に脱いだ服をきれいにシワを伸ばして枕元に置く。入浴の時も、朝起きていくら忙しくても、服をきちんとたたんだようです。

ほとんど選手が、スタートラウンに立つ前に、ジャージを脱ぎ捨てたり、仲間に投げたりする中、静かに服を丁寧にシワを伸ばしてたたんだようです。

忙しさ、慌ただしさ、高まる緊張感にも左右されずに、整理整頓ができたのは、心の鍛錬の現われだと思います。

まったくの無名から、ひたむきな努力と、生真面目で真っすぐな姿勢によって少しずつ力をつけ、ついには頂点の一角まで到達しました。

次のオリンピックを目指していましたが、椎間板ヘルニアやアキレス腱断裂などの故障に加えて、不幸が重なって、残念ながら4年後に亡くなってしまったのは大変残念です。

皆さんは、テレビでオリンピックを見る機会もあると思いますが、華やかな結果や負けて悔しい選手の姿だけでなく、そこまでの努力や苦労も是非見て欲しいと思います。

今年のパリオリンピックの男子マラソンは、閉会式が行われる前日の8月10日（日）に行われます。

60年前に、「マラソン即人間教育であり、社会教育」とあって、ごまかさずに真面目に生活して心を鍛錬して実力を発揮した、円谷 幸吉（つぶらや こうきち）選手がいたことを思いながら、応援したいと思います。

皆さんは、1学期の成績をもらって、頑張った自分を褒めたり、残念であった自分を反省したりしながら、これまでの取組を振り返って、夏休みの目標をしっかりと定めてください。

特に高校3年生は、心の鍛錬の日々になるでしょう。諦めたら終わりです。自分をごまかさずに、ひたむきな努力で、今こそ「蜻蛉魂」の精神を発揮する時です。

勉強を頑張るのが当たり前の中で、いくら頑張っても誰も褒めてくれな
いかもしれませんが、気分転換もしながら、計画どおりに頑張れたら自分を褒めることも忘れないでください。

今年は、明日から例年よりも長い44日間の夏休みとなります。体調に気をつけながら、熱中症にも気をつけて、命を大切に過ごしてください。